現役部員の皆さんへ（OB・OGの皆さんも一緒にお読みください。）

ハイキング部部長　中村　真

コロナ禍において、ハイキング部部員の皆さんは今までにない難しいクラブ運営を強いられていることと思います。登山に必要な知識や技術で、山に登らずに得られる内容は限られています。実地での活動を通して体得する内容が多いハイキング部の活動において、コロナ禍で活動が制限されている現在の状況は大変に苦しい状況です。特に在学時の2、3年の間に先輩から後輩へと技術を継承しなければならない大学のクラブにおいて、今年一年のブランクは非常に大きいものです。こうしたピンチをどのように切り抜けたら良いのでしょうか？

私も大学時代は山岳部に在籍していましたが、当時から山岳部の人員確保は困難でした。私が在籍していた山岳部では、部員を1学年あたり2名確保できれば良い方で、最悪の場合、部員が全く入部しない年もありました。私の代は部員が私1人のみであり、一つ上の代には部員がいませんでした。このため、私の現役時代は山岳部の技術継承に大変な苦労をしました。ある意味、現在のコロナ禍による困難と通じる部分もあるかも知れません。私はこの困難な状況を変えるべく、山岳部の活動内容をそれまでのものよりも広げ、登山のみではなくOB所有の山小屋を訪問するイベントを企画するなど、活動の輪を広げ、部員の層の厚みを増やし、部員をより多く確保するなどの工夫をしました。

新型コロナウイルス感染症の感染状況は我々のみでコントロールができる問題ではありません。従って、現状を冷静に受け入れながらも、現在の状況でもなお可能な活動を模索し、少しでも充実したクラブ活動の模索と、技術と経験の継承のための工夫を、指導的立場のOB・OGと一緒に考えて実行していくしかないと思います。

歴史上、人類は疫病の流行を何度か経験してきましたが、現在のようにコミュニケーションが発達した時代においてのウイルスの世界的な感染拡大は初めてのことであり、誰も正解を知りません。しかし正解が知られていない問題に挑戦することはまさに、登山の目指すところであり、ハイキング部の活動の本質だと思います。

とりあえず、出来る事をリストアップし、一歩一歩進んでいきませんか？